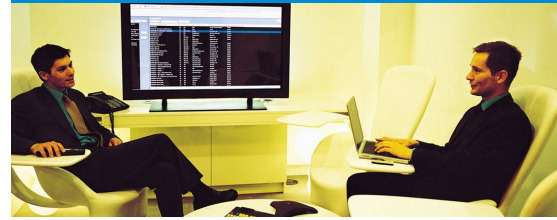


# 三菱商事株式会社



社内のコアな人間が WebEx を利用したことで、社内でも Web 会議の利便性が浸透し、少しずつ需要が広がっている、社内で利用が増えつづける傾向を見る限り、今後もこういったコアな人間が増えれば増えるほどポート数は増えるだろう。

— 三菱商事株式会社 機械グループ CEO オフィス IT 支援ユニット

## WebEx が三菱商事の経営課題解決の糸口を提供してくれた



### 業種

500 社を超える連結対象会社を持つ総合商社

### WebEx アプリケーション

Meeting Center

### 概要

社内の資料共有ツールとしての利便性を考慮し、WebEx をワンクリックで使えるように設計し、WebEx のサービスを事業投資先の管理や他社との共同による海外プロジェクトの受注・推進に利用することで自社の付加価値を付与している。

### 三菱商事株式会社について

#### 業務内容

内外輸送会社の代理店業・利用航空運送事業、通関業、複合一貫輸送業、倉庫業等

#### 本社所在地

東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 3 号 (三菱商事ビル本館)

東京都港区港南二丁目 16 番 3 号 (品川三菱ビル 18F ~ 31F)

**WebEx 導入：2002 年 3 月**  
(機械グループ単体での利用でスタート)

三菱商事は 2002 年 3 月から機械グループ単独で WebEx を導入した。また対面業界である製造業やグループ企業向けに WebEx の ASP 式 Web 会議サービスを紹介する為に情報関連会社のアイ・ティ・フロンティアと共同でパートナー契約を締結し、WebEx を顧客に紹介してきた。翌年の 2003 年末には社内全般に Web 会議の認知と利用が増え、2004 年 1 月から WebEx のサービスはイントラネットよりアクセス可能となり、社員コードを入力すると「資料共有ツール」としてワンクリックで使えるように設計されるまでに至り、全社共通の情報共有インフラとして採用された。

同サービスは三菱商事の連結経営における事業投資先管理や、他社との共同国際プロジェクトの受注・推進に活用することで、自社の付加価値を付与している。

#### 導入前の課題

国内外に数多くの事業投資先を抱えている三菱商事の経営課題の 1 つは、各事業投資先とのコミュニケーションだった。例えばあるビジネスユニット A 主管の国内事業投資先取締役会は月 1 回、また 3 ヶ月に一度はオンサイトで経営連絡会を開催していた。しかし三菱商事側の出席者たちが行き来するのに要する時間・労力・費用に加え、会議の承認過程に不可欠な経理や財務担当者の時間を拘束するのは社内に調整が困難であった。ビジネスユニット B では海外の事業投資先と経営計画書の内容確認を行うために、エクセルで財務諸表を作成し、それに加えて更に 30 分程掛けて補足の説明文を作成していた。しかし、相手の返答を受領する迄には時差の関係もあり、半日以上の時差があった。また、ビジネスユニット C では、海外事業の入札プロポーザルを作成する時に、都内の社外弁護士、海外のフィナンシャルアドバイザー、海外出張者など国内外のプロジェクトメンバーとの文言やキャッシュフローモデルの打ち合わせをメールと電話会議だけのやり取りで行っていた。しかし複数の担当者が幾つもの時差の中でやり取りをするには最終的な確認を取るのに 2 ~ 3 日掛かってしまった。

#### 導入の結果

国際規模で事業を推進している三菱商事の課題に WebEx はコンサルティング形式で話し合い、まず社内ベースの用途を目的に機械グループ単独で Meeting Center を 10 ポート導入してみることを提案した。やがて「使い出すと非常に便利だ」という社員の実評がつき、2004 年には全社共通情報インフラとして合計 35 ポートまで契約を拡大した。

#### 導入後の効果

WebEx Meeting Center を導入した結果、国内事業投資先の定例会議に要する時間・労力・費用に頭を悩ませていたビジネスユニット A は、以前と比べてより効果的に会議を進行させることに成功し、承認者の出席も容易になったことで各自の PC から全担当者の目の前で確認と調整を行う事が出来るようになり、会議の進行過程が効率的に短縮された。また、海外事業投資先の経営計画書の内容確認で財務諸表の説明文と返答を受領に半日以上の時差を伴っていたビジネスユニット B と、複数の時差の中で一つの海外事業プロポーザルを作り上げていたビジネスユニット C は、WebEx の Meeting Center が導入されたことでリアルタイムにパソコンのモニターを通してエクセル、ワード、パワーポイントなどのデータを共有し、マウスで的確に話している数字を示し、直接説明をすることが出来るようになった。結果として従来計算根拠などの説明、相手の確認待ちなどにより進行が滞っていた過程が半日以下で解決出来るようになり、時差を越えたコミュニケーションを実現した。三菱商事は、WebEx の Meeting Center を導入することで自社の経営課題の 1 つである「各事業投資先とのコミュニケーション」を大幅に改善した。更にその過程で従来移動に使っていたコストと時間の管理も容易になり、より効率的なビジネスプロセスモデルを手に入れた。

WebEx 導入後、海外の事業投資先と、従来は半日以上掛かっていた説明や計算根拠などの疑問点を 10 分程度で解決出来る、時差を越えたコミュニケーションを取り入れることが出来た。

— 三菱商事株式会社 機械グループ CEO  
オフィス IT 支援ユニット

## 今後の展開

三菱商事が WebEx の Meeting Center を導入してから間もなく 4 年が経つ。同社機械グループ CEO オフィス IT 支援ユニットでは「社内のコアな人間が WebEx を利用したことで、社内でも Web 会議の利便性が浸透し、少しずつ需要が広がっている、社内で利用が増えつづける傾向を見る限り、今後もこういったコアな人間が増えれば増えるほどポート数は増えるだろう」と見解を述べている。また、Support Center の導入については「事業投資先への出向者の IT サポートをしている社員は、先方のシステム環境が同社と違った場合でも WebEx ならインターネット接続さえあれば使える利便性があるので、検討の余地はあるかも知れない」とのことだ。(2006 年現在)

## ハイライト

- 国内外に多くの事業投資先を抱えている三菱商事は、各投資先とのコミュニケーションが経営課題解決の 1 つであり、この課題解決に役立ったのが WebEx の Meeting Center だ。
- WebEx を利用することにより、国内外の離れた立地条件の事業投資先とデータを共有しながら、リアルタイムな問題解決を図ることで、従来の確認待ちや移動に伴うコストと時間を削減できた。